

日本大学 文理学部資料館



Nihon University
College of Humanities & Sciences MUSEUM

目次

I	資料館の沿革	・・・ 2
II	主な収蔵資料	・・・ 3
III	資料の収集	・・・ 4
IV	資料の収蔵・保存・修復	・・・ 4
V	「学芸員コース」の実習	・・・ 4
VI	調査・研究と刊行物	・・・ 5
VII	資料館ホームページとデジタルミュージアム	・・・ 5
VIII	展示会活動	・・・ 6
	令和3年度展示会報告：1号館建築物語	・・・ 6
	－1937年、それは夢のはじまり－	
	令和3年度展示会報告：考古のひみつ	・・・ 7
	－観て、比べて、驚く古きモノ－	
	令和3年度展示会報告：文理の宝・私の宝もの	・・・ 8

I 資料館の沿革

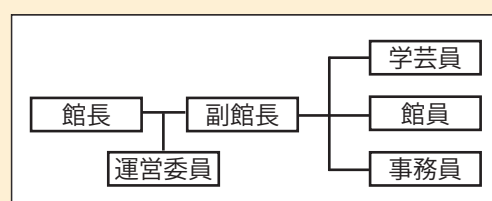
日本大学は、明治22（1889）年に日本法律学校として誕生し、わが国の近代国家の成立に向け法典編纂へんさんに尽力した、時の司法大臣・山田顕義あきよし（1844－1892）を学祖とします。その後、明治36（1903）年に日本大学と改称され、現在に至っています。

日本大学文理学部は、明治34（1901）年にその前身となる高等師範科（のち高等師範部）が、日本法律学校に設けられたところより始まります。その後、法文学部、文学部と進展を重ね、昭和33（1958）年に文学部に教養部を吸収し、理系の学科等を加え文理学部としてスタートしました。現在の文理学部は、人文系・社会系・理学系の3系統18学科から構成される複合学部として発展を続けており、平成23（2011）年には学部創設110周年を迎えました。

日本大学文理学部資料館の沿革は、文理学部の歴史の上に成り立っています。文理学部は120年近い歴史の中で、研究や教育のために文学、歴史学、考古学、地理学、自然科学に関する諸資料を収集し、さらに保管や展示、調査・研究を継続的に行ってきました。当館は、これら多年にわたり収集されてきた諸資料を学生、教職員及び一般の利用に供することを目的として、平成18（2006）年4月1日に設立され、平成28（2016）年には創設10周年を迎えました。

また、当館は平成19（2007）年3月29日付で、東京都教育委員会より博物館相当施設の指定を受けています（『東京都公報』第13915号、東京都教育委員会告示第30号）。

資料館の組織



日本大学文理学部資料館は文理学部の付属機関です。

Ⅱ 主な収蔵資料

当館では、文献資料・考古資料・地図資料をはじめとして諸分野に関する資料を保存し、展示等を通して広く内外に公開しています。また、さらなる継続的な収集活動を進めており、令和2（2020）年3月現在、収蔵資料の総点数は約2万5000点を数えます。

文献資料



『枕草子』 天正本 上・中・下 写本3冊

平安時代に宮中に仕えた女房である清少納言が著した随筆の写本です。清少納言自身が記した原本は、存在が確認されていませんが、これは、現在4系統ある『枕草子』の諸本のうち、三巻本と呼ばれる系統の写本です。

「天正本」という通称は、写本の奥書に、「申請楊明御本写之／天正十一年二月八日令校合畢」とあることからです。下巻の最後、白紙の部分に、中邨秋香（1841－1910：国文学者、歌人）から武藤元信（1854－1918：国文学者、枕草子研究者）へ、この写本を献呈した時の辞が、署名と朱角印付きで記されています。なお、本写本は、昭和10（1935）年に文部省から重要美術品の認定を受けています。



『小式部』 写本 1冊

『小式部』は室町時代末に成立したと推察されている御伽草子^{おとぎぞうし}*で、平安時代の歌人である、小式部内侍（和泉式部の娘）が詠んだとされる和歌を題材とした説話を集めた、歌人伝説物語です。

当館収蔵品は、小式部のみの物語で構成される別本系統の本文を有し、奈良絵と呼ばれる挿絵が7枚あります。

奈良絵には、泥絵具を用いた素朴で典型的なものや、金銀を多用した極彩色の土佐絵風のもの等があります。

※御伽草子：室町時代から江戸時代初期にかけてつくられた短編の物語草子の総称。

考古資料



人物埴輪

茨城県筑西市 女方古墳群出土

古墳時代、古墳造りとともに埴輪に樹立される埴輪も全国へ広がりました。埴輪には大きく区分して円筒埴輪と、形象埴輪（人物、動物、家形、器財等の種類）があります。片手をあげている人物埴輪は、近年の発掘調査と研究から、馬形埴輪とセットになる馬曳きを表わしたものとも考えられ、手をあげているのは馬の手綱をひく姿と思われます。



縄文土器

青森県出土（尾崎元春氏寄贈）・岩手県御明神遺跡出土

縄文時代の集落遺跡からは必ずと言っていいほど土器が出土します。土器は、生活の必需品として使われていた物でした。当館収蔵の考古資料には、受贈されたものや、発掘調査によって収集された東北地方出土の縄文時代晩期の土器があります。土器には様々な形態がありますが、こちらの土器は小形の鉢に高台を取り付けた台付鉢です。

III 資料の収集

当館では、既存の収蔵資料をもとにした系統的な収集計画のもと、さらなる調査・研究活動に利用でき、今後の展示資料として有効に活用できる資料を選定し、継続的な収集活動を進めています。

また、平成 21 (2009) 年度の展示会「写された満洲～デジタルアーカイブから甦る^{ハルビン}哈爾濱都市空間～」で「満洲国」関連の展示を行って以降、一般の方より「満洲」関連資料が寄贈されました。さらに平成 23 (2011) 年度の展示会「日本大学文理学部 110 周年記念展示会 Discovery! 文理学部 ～向き合って、その先へ～」の際には、本学の卒業生より文理学部の歴史に関連した資料が寄贈されました。



青地コレクション絵葉書
(山田紗代子氏寄贈)



二神コレクション絵葉書
(二神照夫氏寄贈)



文理学部第 1 期生の学生帽
(澤田大多郎氏寄贈)

IV 資料の収蔵・保存・修復

収蔵資料の管理は、博物館等の施設において重要な役割の一つです。当館収蔵資料は、主に和書等の文献資料と、地図資料・考古資料になります。当館ではその資料の材質ごとに収蔵する場所を変えており、各々の資料にとって最適な方法で保存しています。

文学・歴史学・地理学等の和書をはじめとして、文献資料や地図資料は紙や絹等で出来ています。それらは温湿度の影響を比較的受けやすいために、24 時間空調管理の貴重書庫に保管しています。考古資料は本学の専門教員の指導の下、保管施設にて管理しています。

また当館では、収蔵資料をより良い状態で後世に受け継ぐために、専門の修復業者と協議し資料の修復も行っています。資料の損傷状況（亀裂・虫損・糊離れ・剥落等）を確認し、修復の緊急性や展示と研究における活用頻度等を考慮して、順次修復を実施しています。

V 「学芸員コース」の実習

文理学部には、博物館業務にたずさわる学芸員の資格を取得できる「学芸員コース」があります。当館の展示室は、コースを履修する学生の実習の場としても活用されています。実習では、展示会の企画・準備の補助や、展示室の受付対応・展示解説・展示室内の環境整備等を行います。

また、当館は博物館相当施設の指定を受けており、別途、館務実習の受入れを行っています。



特別教室での実習風景



展示室での実習風景

VI 調査・研究と刊行物

当館では、各展示会の企画・準備において、展示資料の調査・研究を行っています。これらの活動は、本学の教員及び大学院生等の協力を得ることで成り立っています。

これら調査・研究の成果は、資料解説文が記載された展示パネルやキャプションだけでなく、展示室で無料配布している図録・リーフレット・パンフレット等の刊行物を通じて提供しています。また、当館では毎年資料館パンフレット（当データ）をデジタル公開しており、前年度に開催した展示会やイベント等の活動報告を行っています。



過去の展示図録の一部



資料館パンフレット

VII 資料館ホームページとデジタルミュージアム

ホームページでは、館の概要・沿革や展示会の案内等がご覧いただけます。

また当館では、収蔵資料台帳のデータベース化、及びデジタル資料の作成とその管理・運用を推進しています。平成23（2011）年6月から、文理学部資料館「デジタルミュージアム」にて、一部収蔵資料のデジタル画像の一般公開を始めました。現在、公開している資料は以下の通りです。当館ホームページとあわせてご覧ください。

1. 二神コレクション（絵葉書）：二神照夫氏（1932-2016）が蒐集した戦前期の「満洲国」に関する絵葉書。中国黒竜江省牡丹江に関する絵葉書が中心。
2. 青地コレクション（絵葉書）：青地清彦氏（1919-1945）が「満洲国」の地質調査（1939-1941）に向かう過程で購入した、朝鮮と「満洲国」各地の絵葉書。
3. 考古資料：日本大学文理学部所蔵の一部を公開。
4. 亜東印画輯：戦前期に日本人が撮影した、中国・朝鮮半島・モンゴル地域等の自然風景・歴史的建造物等の写真を収めたアルバム。



「日本大学文理学部資料館ホームページ」
<https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/museum/>

「デジタルミュージアム」
<http://ahj.chs.nihon-u.ac.jp/dm/>

VIII 展示会活動

日本大学文理学部資料館では、これまで平成 18（2006）年 6 月に展示会「日本の書物 かたち・とじかた」を開催して以来、年に 3 回から 5 回ほどの展示会活動を継続的に実施しています。

展示会のテーマは、大学・学部史をはじめとして、国文学・歴史学・地理学・自然科学等多岐に及び、多種多様な学科をもつ文理学部の特色を活かしています。また、展示会にあわせてギャラリートークや特別講演会等のイベントも企画し開催しています。

令和 3（2021）年度は、計 3 回の展示会を開催しました。以下に、実施した各展示会の詳細を報告します。

令和 3 年度 展示会報告

1 号館建築物語 － 1937 年、それは夢のはじまり－

令和 2 年度 日本大学文理学部資料館 展示会

1 号館建築物語

－ 1937 年、それは夢のはじまり－

入場無料
2021
3/1（月）
～ 4/30（金）

平日 10 時～17 時
土曜 10 時～13 時
休館日：日曜・祝日・3/25（木）
主催：日本大学文理学部
日本大学文理学部資料館
協力：明治大学図書館
東京都公文書館
神奈川県
日本大学医学部
日本大学企画広報部広報課
日本大学本部管財部管財課
日本大学文理学部管財課
日本大学文理学部自然科学専修

会場：日本大学文理学部資料館展示室（図書館棟 1 階）
開館時間：平日 10 時～17 時（土曜日は 13 時まで開館）
所在地：〒156-8550 東京都伊豆山 15 区松上 3-25-40
TEL/FAX：03-5287-5500（資料館受付専用）
交通案内：京王線 松上駅より徒歩 8 分
京王線 高島田駅より徒歩 10 分
京王線 高島田駅より徒歩 8 分

日本大学文理学部資料館
Nihon University College of Humanities & Sciences MUSEUM ホームページ：<http://www.chu.nihon-u.ac.jp/museum/>

会 期：令和 3 年 3 月 1 日（月）～7 月 17 日（土）
主 催：日本大学文理学部
日本大学文理学部資料館
協 力：明治大学図書館
東京都公文書館
神奈川県
日本大学医学部
日本大学企画広報部広報課
日本大学本部管財部管財課
日本大学文理学部管財課

【展示図録の刊行】

『1 号館建築物語－1937 年、それは夢のはじまり－』
編集・発行：日本大学文理学部資料館
発行日：令和 3 年 4 月 9 日
A 4 版、フルカラー、24 頁、200 部発行

日本大学文理学部キャンパスのなかで最も古い建物である 1 号館は、1937 年に日本大学予科の校舎として落成されました。以降、教育や社会の変化に呼応しながら改修を重ねてきました。

本展示会は、1 号館という「建物」の歴史から文理学部史の新たな一面を見出そうとする初の試みです。青春の日々をこの 1 号館で志高く過ごした予科生の様子と、彼らとともに時を刻んだ 1 号館の歴史を、貴重な建築関係資料と予科生の卒業アルバム写真にて紹介しています。1 号館新築時の様子がわかる落成記念絵はがきや、空襲を免れるために 1 号館全体に迷彩を施した写真などは見どころのひとつです。さらに、予科生の卒業アルバムからは、学生の生き生きとした姿とともに、当時の校舎の内観と外観の詳細を知ることができます。本展を通じて、暗黒の時代へと向かう 1930 年代にありながらも予科生の心のなかに確かに存在していた希望と夢の鼓動を感じとりながら、1 号館という古き建物が継承されることの意義を考えていきます。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学内に限定して公開



予科文科新校舎落成記念絵はがき 1938 年



1 号館外観 2021 年 6 月現在

令和3年度 日本大学文理学部資料館 ミニ展示会



考古のひみつ
—観て、比べて、驚く古きモノ—

入場無料
2021
6/18 (金) ~
7/18 (日)

休館日：日曜
※7/18日(日)は
夏季オープンキャンパスのため閉館

主催：日本大学文理学部 日本大学文理学部資料館
協力：日本大学文理学部史学科

会場：日本大学文理学部資料館展示室（図書館棟1階）
開館時間：平日10時～17時（土曜日は13時まで閉館）
所在地：〒156-8550 東京都世田谷区板橋上水3-25-40
TEL / FAX：03-5317-8590（資料館事務室直通）
交通案内：京王線板橋上水駅より徒歩8分
京王線・東急世田谷線下高井戸駅より徒歩8分
ホームページ：http://www.chs.nihon-u.ac.jp/museum/



日本大学文理学部資料館
Nihon University College of Humanities & Sciences MUSEUM

盾持ち人（日本大学文理学部史学科所蔵）

古代のモノには不思議な魅力があります。どのように使っていたのかわからないものや不思議なデザインのものなどがあり、人びとの目を奪います。

本展示会では日本大学文理学部史学科が所蔵する考古資料（真物/まもの）とそれに関連のある複製品などを展示し、クイズ形式で真物を探すミニ展示会です。展示ケース内の時代や地域が異なる真物と複製品等を1点ずつじっくりと観察したあと、クイズの答えとともに真物の特徴や複製品といえる根拠などが書かれた解説を読むことで考古学の知識がない方も考古学のモノを観る楽しさを体験できるところがこの展示会の見どころです。

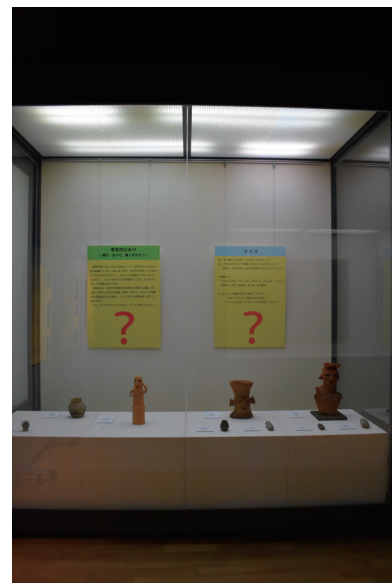
※（真物/まもの）・・・にせものでないこと。また、そのもの。ほんもの。（新村出『広辞苑』第3版 岩波書店 1983年）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学内に限定して公開

会 期：令和3年6月18日（金）～7月17日（土）
主 催：日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館
協 力：日本大学文理学部史学科

【展示会図録の刊行】

『考古のひみつ—観て、比べて、驚く古きモノ—』
編集・発行：日本大学文理学部資料館
発行日：令和3年7月15日
A4版、フルカラー、8頁、200部発行



展示会の様子（1）



展示会の様子（2）



展示会の様子（3）



会期：令和3年9月23日(木)～10月30日(土)

主催：日本大学文理学部
日本大学文理学部資料館

協力：日本大学図書館文理学部分館

史学科
英文学科
国文学科
化学科
久保木秀夫(国文学科)
鈴木功真(国文学科)
福島恵(史学科)
井村博宣(地理学科)
金丸龍夫(地球科学科)
安井真也(地球科学科)
藤森裕基(化学科)

【展示会図録の刊行】

『文理の宝・私の宝もの』

編集・発行：日本大学文理学部資料館

発行日：令和3年9月23日(木)

A4、フルカラー、16頁、1250部発行

文理学部には18の学科と総合文化研究室があり、また、文理学部を支える多くの教職員がいます。学科や教職員それぞれが教育・研究に欠かすことのできない貴重な書籍や道具、記念すべき品物を持っています。

本展示会ではこれらの学科や学科に所属する教職員が所蔵する資料をかけがえのない「宝もの」として展示しました。人文系からは史学科の教員が所蔵する唐への景教(キリスト教ネストリウス派)の伝来と受容の様子が記された「大秦景教流行中国碑(碑陽:部分)拓本」、英文学科が所蔵する日本大学英文学会が作成していた『英文學會会報 No.5』や国文学科の教員が所蔵する「伝和歌四天王」各筆断簡4葉・及び伝狩野典信(白玉斎)画「和歌四天王」座像 軸装1幅 二重箱入り」といった資料を展示しました。理系からは地球科学科の教員所蔵の南極調査で採取された「西南極セールロンダーネ山地メニパ山産緑色灰簪石榴石」と南極での調査映像や化学科所蔵の1962年に化学科を設立するにあたり必要不可欠だった「化学天秤」などを展示しました。そのほかに文理学部資料館が所蔵する「遠藤幸雄氏受賞 1964年東京オリンピック「体操競技男子個人総合優勝」金メダル」も展示しました。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学内に限定して公開



展示風景(1)



展示風景(2)

令和3年度 イベント活動報告

ギャラリートーク

例年展示会開催にあたり行っているギャラリートークですが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために行いませんでした。



過去のギャラリートークの様子



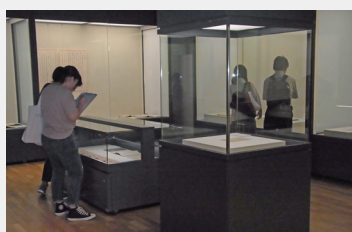
オープンキャンパス・桜麗祭

資料館では、文理学部が所蔵する貴重な資料を広く一般の方に公開するため、夏季・秋季オープンキャンパスと大学祭である桜麗祭の開催にあわせて、毎回展示会を行っています。その際、展示室入り口では、図録、及び館報の無料配布も行い、資料館のこれまでの取り組みについても紹介しています。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため夏季・秋季オープンキャンパスと桜麗祭はwebでの開催となり、それにともない展示会の公開は行いませんでした。



過去のオープンキャンパスの様子



平成 18 年度～令和 3 年度 展示会の記録

年度	会期	展示会名	開館日数
平成 18 年度	6月13日～7月23日	日本の書物 かたち・とじかた	37
	9月20日～10月30日	古代探訪 ～いにしへのオホーツク～	35
	11月6日～11月16日	絢爛豪華な伝奇世界 ～幕末・明治期の合巻本～	11
	12月5日～12月25日	シルクロードの風・水・人 ー日本に至る遙かな道ー	21
平成 19 年度	4月2日～4月8日	桜の文化史	7
	4月23日～6月2日	書写材料と印刷文化展	20
	6月18日～7月28日	肉筆で見る近代文学の多彩な世界	37
	9月25日～11月5日	日本大学商学部構内の遺跡を掘る ～世田谷区大蔵遺跡第8次発掘調査～	35
	11月15日～11月30日	体育学科創設50周年記念展示会 世界を魅了した日大文壇のアスリート列伝	15
	12月8日～12月24日	江戸八百八町をあるく	17
平成 20 年度	4月24日～6月4日	『徒然草』ー兼好と古典文化ー	29
	6月18日～7月28日	はにわまつり ～造形に込められた想い～	36
	9月26日～10月24日	旅 ー中古・中世日記紀行文学の世界ー	23
	10月31日～11月28日	文理学部資料館・芸術資料館交流展 能面&狂言面 ～面のまなざし～	24
平成 21 年度	4月20日～5月13日	日本の書物 かたち・とじかた	14
	5月20日～6月25日	王朝歌物語の世界	32
	7月3日～7月31日	宇宙から見た地球の自然と災害	26
	10月6日～10月17日	写された満洲 ～デジタルアーカイブから甦る哈爾濱都市空間～	9
	10月30日～11月27日	藝術学部 ORCNANA プロジェクト交流展 おどり衣裳のコスモロジー ～日藝コレクション～ 展 一伝六代目屋上菊五郎の衣裳を中心にー	24
平成 22 年度	5月10日～7月30日	武笠文庫の和書 ～日本文学を中心に～	69
	9月27日～10月31日	華麗なる縄文 ～形態と文様～	33
	11月10日～11月19日	古代ローマの港町 オステリア	10
	12月1日～12月20日	日本大学文理学部資料館開設5周年記念展示会 資料館のあゆみと文理学部の歴史	17
平成 23 年度	5月23日～6月24日	近世文学資料展	28
	7月1日～7月30日	地球温暖化時代におけるヒートアイランド現象	28
	10月1日～10月30日	伊能図でみる東日本ー東北地方を中心にー	24
	11月14日～12月20日	日本大学文理学部110周年記念展示会 Discovery！文理学部～向き合って、その先へ～	31
平成 24 年度	6月1日～7月23日	往来物の文化誌ー江戸時代の庶民教育ー	45
	9月22日～9月23日	はじめての文理学部&資料館	2
	10月1日～11月4日	描かれたく満・蒙>ー「帝国」創造の軌跡ー	28
	11月19日～12月22日	わくわく古墳探検	34
平成 25 年度	4月1日～4月6日	はじめての文理学部&資料館	6
	5月27日～7月23日	中世文学資料展	52
	10月1日～11月4日	江戸・東京の風景ー地理写真を中心としてー	29
	11月18日～12月21日	土器と生活ー弥生・古墳時代の収蔵品からー	29
平成 26 年度	5月12日～7月21日	日本大学・考古学研究所のあゆみ	63
	9月20日～10月18日	古典籍から見る日本の書	25
	11月1日～12月13日	写真と地図にみる江戸後期の風景	38
平成 27 年度	5月18日～6月6日	日本大学文理学部のあゆみー学祖山田顕義の始動ー	18
	6月22日～7月21日	語本の世界ー近世の出版文化と教養ー	36
	10月5日～11月2日	現された「満洲国」ー（満・蒙） 影写の多様性と受容ー	26
	11月16日～12月19日	写真で見る水辺の風景ー都市近郊の昭和30年代を中心にー	31
平成 28 年度	4月25日～5月21日	日本大学文理学部資料館の「今」	19
	6月6日～7月22日	日大の発掘1ー発掘実習の記録ー	41
	9月18日	資料館パネル展示	1
	10月24日～12月23日	百人一首展	51
平成 29 年度	4月3日～4月8日	はじめての文理学部&資料館2017	6
	5月8日～7月22日	考古学所蔵品展ー所蔵資料から見る日大の発掘ー	67
	10月1日	資料館パネル展示	1
	10月23日～11月26日	王朝の物語展	31
	12月11日～12月23日	「満蒙」関係寄贈資料展 ー記録化された「満洲」日本人の日常と記憶ー	12
平成 30 年度	4月2日～4月7日	はじめての文理学部&資料館2018	6
	5月14日～6月9日	源氏物語展ー読む・描く・広がるー	25
	7月14日～7月24日	想いをつなぐ炎ー古代オリンピックから日本へー ストラトス・クリム氏所蔵 トーチ展	10
	9月25日～11月4日	形象化された〈満・蒙〉ー日本大学文理学部所蔵 ビジュアル・メディアを中心としてー	35
	11月19日～1月19日	クビナガリュウとアンモナイトの化石展 ー白亜の大地に広がる北海道中川町からー	41
平成 31 年度 令和元年度	4月1日～4月24日	はじめての文理学部&資料館2019	21
	6月10日～7月22日	華ひらく王朝の和歌ー勅撰三代集の世界ー	38
	9月23日～10月18日	日本大学130年の軌跡ー明治から令和へー	22
令和2年度	11月1日～12月21日	出張！大深山遺跡ー山の縄紋コレクションー	45
	8月14日～9月28日	文理学部スポーツのあゆみ	28
令和3年度	3月1日～7月17日	1号館建築物語ー1937年、それは夢のはじまりー	114
	6月18日～7月17日	考古のひみつー観て、比べて、驚く古きモノー	26
	9月23日～10月30日	文壇の宝・私の宝もの	31

※本パンフレットの編集は、土井裕介（日本大学文理学部資料館 学芸員）、小野智子（同学芸員）が行った。
 ※当データ掲載の画像の無断転用を禁ずる。

利用案内 MUSEUM INFORMATION

開館時間

平日 10:00～17:00

土曜 10:00～13:00

観覧料 無料

休館日

日曜・祝祭日、大学の定める休日、館内整理日、
夏期・冬期・春期休暇期間

※展示会により開館時間や休館日が異なる場合がございますのでご了承下さい。
詳細は、各展示会のチラシ・ポスター、資料館のホームページ等でお知らせします。

お問い合わせ CONTACT US

所在地 〒156-8550
東京都世田谷区桜上水3-25-40

電話・FAX 03-5317-8590

URL [https://chs.nihon-u.ac.jp/
campus-life/kyogaku-s/museum/](https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/museum/)

交通案内 ACCESS

京王線をご利用の場合
桜上水駅または下高井戸駅下車 徒歩8分

東急世田谷線ご利用の場合
下高井戸駅下車 徒歩8分

令和4年度 展示会のお知らせ

- ① 日独交流160年記念展—軍事協力を超えて—（令和4年4月1日～4月28日）
- ② 『甲陽軍艦』の世界—酒井憲二旧蔵本より—（令和4年6月13日～7月18日）
- ③ （仮称）人文科学系企画展（令和4年9月23日～11月6日）
- ④ （仮称）活火山 浅間山特集（令和4年11月21日～12月20日）

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況に応じて、一般の方のご来場をご遠慮いただく場合や会期を変更する場合がございます。予めご了承ください。展示会の詳細につきましては、チラシ・ポスター等の広報物や資料館ホームページ等でお知らせいたします。



日本大学文理学部資料館

編集・発行：日本大学文理学部資料館

